

黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成28年1月発行

第134号

発行所

公益社団法人 和歌山県看護協会

〒642-0017

海南市南赤坂17

TEL:073-483-1005

FAX:073-483-1266

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

発行人

古川 紀子



「北海道 知床の海」

写真提供：野上厚生総合病院 看護師

CONTENTS

- 新年のごあいさつ 2
- 「ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ
第3回カンゴサウルス賞を受賞して」 2
- ナース章受章者のことば 3~4
- 保健師のコーナー 5
- 助産師のコーナー 5
- 看護師のコーナー 5
- 災害支援ナース指導者養成研修 6
- 専門認定看護師のコーナー(トピックス2016) 6
- 地域連携のコーナー 7
- 訪問看護ステーションだより 7
- 医療安全数珠つなぎ 8
- 私の○○ 8
- リレーエッセイ 友達の輪 8
- 男の時短料理 8
- My Hospital 9
- プレゼント 9
- 潜在看護職復職支援研修に参加して 10
- 看護師等養成所教員継続研修(中長期)を
11月21日(土)に開催しました 10
- からだとこころの悩み相談(地域自殺対策強化事業) 10
- 和歌山県看護協会の動き 11
- 和歌山県に看護協会の要望書を提出 11
- 平成28年度 改選役員、推薦委員および平成29年度日本看護
協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について 11
- 知って得する看護協会だより 12

和歌山県看護協会 会員数

平成27年12月18日現在

会員総数	5,509名
名誉会員	1名
保健師	124名
助産師	200名
看護師	4,972名
准看護師	212名

新年のごあいさつ

公益社団法人 和歌山県看護協会 会長 古川 紀子



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、健やかに平成28年の初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

和歌山県看護協会は、公益社団法人としてスタートして4年を経過し、様々な事業に取り組んでいるところです。日頃から会員の皆様のご支援とご協力をいただき、協会活動が円滑に推進できますことに対し、心から厚くお礼を申し上げます。

これまでどの国も経験したことのない急激な少子高齢化に対し、県民に安心・安全な医療の提供、また、住み慣れた地域でその人らしくいきいきと安心して生活できるために、在宅医療を含めた地域包括ケア体制の構築など対応すべき課題が山積しております。

このような状況の中、看護職能団体である和歌山県看護協会は、社会の変革と共に重要性を増す看護の役割を認識し、行政はじめ関係団体との連携を密に取り組んでまいります。

さて、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の一部改正により、平成27年10月から、看護職が離職の際に都道府県ナースセンターに届け出ることを努力義務とする制度が開始されました。ナースセンターでは、研修や交流会等の情報提供をおこない、現場復帰を後押しさせていただいております。看護管理者様には、①看護職員が離職する際に、届け出制度の情報を提供し届け出を促して頂く②離職される看護職員の同意を得てご本人代行で届出を行っていただくなど、届出が適切に行えます様よろしくお願いいたします。

平成29年度から新「会員情報管理体制」が開始されます。施設担当者の事務作業軽減、現金取り扱いのリスク軽減、入会組織率の維持・向上、会員サービスの充実・向上を目的としています。詳細につきましては、随時ご連絡させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

今年も、公益社団法人和歌山県看護協会の会員の皆様の看護への熱い思いを結集し、よりよい看護が提供できるよう積極的に事業を推進いたしますので、会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。

「ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ第3回カンゴサルス賞を受賞して」

橋本市民病院 副院長兼看護部長 西山 登志子

当院では、「働く看護職のモチベーションの向上と、看護部の問題点の明確化」を目的にWLB推進ワークショップ事業に参加しました。調査結果より、「看護師長職位の人材育成」が重要と考え、教育の充実を図りました。現在少しずつではあるが、管理職（主任看護師含む）の成長がみられ、看護スタッフ（看護補助者含む）の自発的研修参加や学会認定等の有資格者が増えてきました。WLB推進ワークショップ事業への参加は、当院看護部にとって大きな財産となりました。





ナース章を受章して



かつらぎ町花園地域振興課 保健師

弓庭 喜美子

このたび、栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄に存じます。

ご推薦下さいました関係者の皆様に心から御礼申し上げますと共に、これまで保健師として36年間を振り返り、ご指導、ご支援下さった先輩、同僚、友人の皆

様に心から感謝申し上げます。目まぐるしく変化する社会情勢の中で、地域住民に支えられながら、住民とともに、地域に根ざした健康な地域づくりをめざしてまいりました。今後も、地域住民とともに、心豊かな人生が送れる地域づくりをめざした活動をしていきたいと考えています。

尚、一層のご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

和歌山県西牟婁振興局 嶋田 左知代

この度、「ナース章」受章の栄誉を賜り、驚きとともに喜びも大きく、職場の皆さんを初め周囲の方々に支えられたお陰と感謝しております。

和歌山県に就職して36年が経ちました。「長いようで、あっという間だった」と感じています。特に思い

出すのは、16年前御坊保健所時代に、地域の家族会や当事者の会、地元の精神科病院の医師、市町村の担当者とともに精神障害者の作業所づくりに立ちあえたことです。「みんなで、地域に必要な資源をつくっていく、こういう仕事を続けたい」と思いました。

今後も微力ながら、地域の健康づくりに関わっていきたいと思います。

名手病院 前田 香代

思いもかけない立派な章をいただきありがとうございます。思いました。

45年間の看護職で患者さん、ご家族の思いを大切に

看護する心を持ち続けてきました。

看護の大切さを、学ばせていただき導いていただき、ご指導いただいた先輩方のおかげだと感謝しております。これからも病院の理念である、「やさしさと、思いやり」を大切にしたい看護を伝えていきたいと思っています。

紀南病院 林 弘子

和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄でございます。ご推挙下さいました関係各位をはじめ、上司、同僚、後輩の皆様方に心よりお礼申し上げます。

受章の連絡を頂いた時、憧れのナースキャップをつけ、灯火を手にナイチンゲール誓詞を誓った戴帽式の感動を思い出しました。

「信頼関係」を大切にして38年間勤務してまいりま

した。

患者様からは、語りつくせない多くのことを学び、人間的にも成長させて頂き感謝しています。医療は日進月歩であり、少子高齢化も急速に進んでいます。

看護職の果たす役割は、ますます重要になってきます。この受章の重みを胸に刻み、こころ新たに、より良い看護が提供できるよう環境づくり、人づくりに取り組んで参ります。

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様によりお礼申し上げます。和歌山県立医科大学附属病院に就職し、様々な部署で経験を重ねてまいりました。その中で私を支え導いて下さった患者さんや上司・同僚・先輩の皆様に深く感謝いたします。

現在は、救命救急センターで看護師長として「患者・

家族の思いに寄り添う」を大切に、副看護師長と共に救命救急におけるより良い看護を目指して努力しております。

これからも、看護の質向上に一層努力を重ねてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り誠に光栄に存じます。

これもひとえに、関係各位の皆様方のご尽力の賜物と深く感謝いたします。

看護学校を卒業後、田辺中央病院で長く勤務をさせて頂き、この間和歌山県下の大先輩の方々との出会いがあ

りました。多くの事をご指導頂いたおかげで自分らしく楽しく看護を続けることができました。

あともう少しの間は、後輩の支援です。

看護の仕事は、何よりも人間性です。誰もが持っている「おもいやりの心」を発揮するには、どんな伝え方をすればよいのかを考えていきたいと思っております。

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄でございます。「ナース章受章」の知らせを聞いた時に正直「私でいいのでしょうか？なぜ？」と信じられない気持ちでした。ひとえにご推薦下さいました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

昭和54年に看護師として国立療養所和歌山病院に入職後、国家公務員、地方公務員、民間病院へと、病院組織の中で急性期から回復期・地域医療と幅広く経験させて頂きました。これまで私を支えて下さった患者さんや

上司・先輩・同僚の皆様に恵まれたお蔭であると感謝申し上げます。

医療環境、特に病院環境は日々厳しくなっています。入院・外来の患者さんだけでなく地域住民の皆様に安心・安全への環境を守り、治療や療養に専念していただけるように、信頼される確かな医療・看護を目指し、精進してまいります。なお一層のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

この度、栄えある和歌山県「ナース章」を賜りましたことを、深く感謝いたします。ご推薦くださいました関係者のみなさま方には、心よりお礼申し上げます。

紀北分院に就職し28年間いろいろな方々との出会いは、多くのことを学ばせていただきました。そして、何より看護師として今まで働き続けられましたことは、よき上司や同僚、先輩の方々そして、家族の協力、暖かい

励ましやご指導のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。今回の章を励みに、今後も患者さんに寄り添い、納得できる看護実践を目標に、地域の方々に親しまれ、信頼していただけるような病院作りに、精一杯努力して参りたいと思っています。今後とも、ご指導よろしくお願い申し上げます。

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜りましたことは身に余る光栄であり、ご推薦頂きました関係者の皆様に深く感謝いたします。看護学校卒業後、(現)愛徳医療福祉センターに就職し31年になります。他の受章者の皆様のような業績もございませんが、医療・福祉の分野で永く勤めてきたことに対し頂けたものとうれしく思

います。ここまで続けてこられたのも導き育てて下さった職場の皆様のおかげであり、関わらせて頂きます障害児者の方々やご家族から多くの事を学び感動を頂いているおかげと深く感謝申し上げます。今後も微力ながらもお役に立てるよう勤めさせて頂きたいと思っておりますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

保健師のコーナー

保健師職能委員 木下 有香



昨年度より保健師職能委員を務めさせて頂いています。

この職に就いたことで、職能委員長を通じて国の動向や看護協会の動きが寄り身近に感じられ、タイムリーな情報や他地域での先進的な取り組みを知ることができ、得した気持ちと反面、自分自身の日々の活動

がPDCAサイクルに基づく事業展開ができていのか否か…改めて考えさせられる機会にもなっています。

社会における健康課題が複雑多様化する中、行政施策も変化し、そこに求められる保健師の役割も複雑多岐に渡ります。しかし、やはり基本になるのは住民主体となる地域づくりの視点です。全国的にも業務分担制からかつての地区担当制へとシフトしていく傾向にあります。今の時代に求められる「地区担当制と

は…」[効果的な保健活動とは…]しっかりと検討していく必要があるかと思えます。

そこで、1月30日(土)開催の「保健師交流会」では「住民と共に歩んだ保健師活動」と題し、花園村で長年にわたり保健活動を展開してきた弓庭保健師からの講話と意見交換、交流会を企画しています。地区担当制についての保健師の捉え方が、年代や配属された環境によっても異なることと思いますが、今一度保健師活動の原点に立ち返り「大変なこともあるけれどもやっぱり楽しい! 頑張ろう!」と思えるような互いに元気になれる交流会になることを期待しています。ベテランさんも新人さんも…たくさんの保健師の方々のご参加をお待ちしています。

今後も皆さんへの情報発信と、皆さんに期待されるような研修の企画ができるよう、研鑽してまいりますのでご指導よろしくお願いたします。

助産師のコーナー

助産師職能委員 浦 由香



昨年度より助産師職能委員をさせていただき、2年目になります。始めは、職能委員活動の右も左も分からず不安でしたが、今では他施設の助産師の皆さんと交流できることが楽しみであり、毎日の職務の中でいい気分転換にもなっています。

平成27年は、助産師クリニカルラダー・レベルⅢ認定の初年度であり、職能委員会ではその申請に向けて、啓発と必須研修等の企画・開催を行って参りました。その甲斐もあり、県内では70名以上の申請がありました。全国では、当初の予想の約3倍に当たる5,800名余りの申請があり、12月の認証試験を経て多くの「アドバンス助産師」が誕生することに

なります。アドバンス助産師は「自律して助産ケアを提供できる助産師」として、客観的にも認められたことになり、それを公表することができます。

今後は「全ての母子に助産ケアを」を大目標に、助産師自身が専門職としての自覚を持ち、活躍の場を広げていかなければなりません。また、産婦人科・小児科の医師不足が叫ばれる昨今、少子化対策や子育て支援策という国の施策の中でも、改めて助産師の必要性や積極的な活用が注目されており、私たち助産師に対する期待は高まっています。

平成28年度の助産師職能活動としても、地域母子保健をテーマに挙げていく予定です。今後も皆様のご協力をよろしくお願致します。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅰ 播島 京子



看護師職能委員で…?なに…??なににするの??と始まった、私の看護師職能Ⅰ委員も2年目に入りました。看護協会員でありながら職能委員会活動について全くの無知でした。何もわからず委員会に参加して、先輩方々にご指導いただき日々頑張っています。

さて、本年度の看護師職能集会「ぶっちゃけ」研修はいかがでしたか?アンケートでいただいた皆様の声を大切に、来年度の研修計画の参考にさせていただきたいと委員

一同思っています。本年度の看護師職能Ⅰの活動の目標としては、「質の向上」「動き続けられる職場作りに向けた活動」「医療連携の確立」を掲げ、皆様の看護の力が最大に発揮できる支援は何かを考えていきたいと思っています。

本年度開催として、専門・認定看護師交流会、准看護師研修会、男性看護師交流会を予定しています。皆様のご意見を参考に今後の委員会活動や研修会の企画・立案させていただきたく思っていますので、貴重なお時間ではありますがご参加・ご協力よろしくおねがいします。お待ちしております。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅱ 角 敬子



看護師職能委員会Ⅱの活動に参加させて頂き、3年目になります。

在宅・介護領域において、医療的ケアの増加や介護度が上昇する中で看護師のスキルアップが求められます。

しかし、介護施設等における研修の機会が少ないことから、看護師職能委員会Ⅱは、看護の専門性、質の向上を目標とし出前研修を行ってきました。

今年度は、テーマを「在宅におけるリスクマネジメント」「尊厳を守る看取りのケア」「感染対策」とし8地区で訪問看護ステーション等への出前研修を行っています。

地域に出向き、出前研修を行うことで多くの方に参加して頂き知識を深め、また貴重な情報交換の中で、介護施設の看護師としての能力やマネジメントのあり方を私自身、考えさせられる良い機会となっています。

介護、福祉施設、在宅領域においての看護の連携や他職種協働の課題発見の場でもあり、高齢者ケアの質の向上に繋がっていければと思います。

今後、超高齢社会を迎え在宅、介護施設で過ごす高齢者が増え、ニーズの多様化も考えられます。尊厳をもってその人らしく生きていけるよう、看護師としてこれからも頑張っていきたいと思っています。

平成27年度近畿府県協会災害支援ナース指導者養成研修

近畿地区災害支援ナース指導者養成研修が、平成27年11月9日(月)～10日(火)滋賀県看護協会にて於いて開催されました。和歌山県看護協会から3名が参加、その中の海南医療センター 中尾浩章さんに今回の研修を受講しての感想を書いていただきました。

災害支援ナース指導者養成研修に参加して

海南医療センター 中尾 浩章



今回、災害支援ナース指導者養成研修に参加させていただき、講師である石井美恵子先生より、基礎的な「災害支援ナースとは」からはじまり、「災害支援ナース派遣要領」「災害支援ナースのための研修シラバス」についての講義。また、今回の研修で最も重要なポイントである「教育や教授法、シミュレーション教育の概要」について講義および模擬授業体験を通して、大変興味深く、また楽しく学ばせていただきました。

教えることで自らの学びにし、いつまでも成長し続けることが大切であること。教えることの難しさや大切さ、さらに楽しさも教えていただきました。

その中でも特に印象に残っていることが2つあります。

1つは、先生が講義の中で、繰り返し強くおっしゃられていた、「論理的思考の重要性」です。

先生は、「意味を考えずに行動すると、失敗に陥るのみでなく、評価や修正も困難になるが、論理的思考に基づいて考え行動したことは、分析や評価もしやすく、そのつど修正していける」と話されていました。

2つ目は「平時にできないことは、危機のときにもできない」ということ。

「災害支援ナースにまず必要なのは、基礎的な看護能力(考えるための知識の絶対量)であり、その基盤として看護理論(概念)が重要となる」とも話されていました。

私はこの2つのことから、平時より常に論理的思考で、その意味を考えながら看護実践することが重要であり、そうすることで根拠に基づいた本物の能力となり、危機のときに使える能力になるのだと捉えました。

災害支援ナース登録者はまだ足りているとは言えず、さらに養成していかなければならないとのことなので、今回の研修で学んだことを役立てられるように、また自らも1人の災害支援ナースとして、日頃の準備や学習を怠らぬようこれからも精進していきます。

皆様も興味がありましたら、看護協会へお問い合わせください。

専門認定看護師のコーナー トピックス 2016

急性期病院において私がやるべきこと

橋本市民病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 山本 奈保美



現在わが国の脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)による死亡者は年間約13万人(平成24年度厚生労働省調査)で、死亡原因の第4位を占めており、寝たきりの最大の原因ともいわれています。2010年に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師(Certified Nurse in Stroke Rehabilitation Nursing)が誕生し、2015年全国で合計494名となり、和歌山県下では5名の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が認定されています。脳卒中リハビリテーション看護とは、「再び適した状態に戻すための手段を習得するためのプロセス」だといわれており、認定看護師には「脳卒中の患者が再び自分らしく生活が送れるように支援する」という役割があります。

私は2014年に認定看護師資格を習得しました。私は、その役割を果たすため、患者一人一人に寄り添い、

専門性の高い看護の実践と残存機能を活かしたりリハビリテーションを、ベッドサイドから提供できるよう努めていきたいと考えています。急性期での対応ひとつが患者の今後の生活に大きく影響します。そのため、看護師だけでなくリハビリスタッフ、MSW、薬剤師、栄養士など他職種ともアセスメントを行い、病態の重篤化回避のためのモニタリングとリハビリテーションの実施が行われるよう協働(共同)する必要があります。寝かせきりになってしまわぬように「安静」という認識を消し、いかに早期から安全に「活動性」を与えられるかを検討し、早期離床に取り組んでいきたいと思っています。患者の可能性を信じ、後遺症による障害があってもその人らしい生活が地域で過ごせるように、患者・家族と一緒にこれからの生活を考えられる認定看護師でありたいと思います。

地域連携のコーナー

退院調整

医療法人 裕紫会 中谷病院 看護部長

地域医療福祉連携室

小林 春子

社会福祉士

正木 陽子



各病院に地域連携室が開設し始めた時代の流れの中、中谷病院では改めて、平成 17 年度に地域医療福祉連携室を設けました。私たち自身、「地域医療福祉連携室」というネーミングに対し「長いかな～!？」という思いもありましたが、「福祉」を入れたのには私たちの思いがあります。医療の中に生活の視点を入れ、私たち自身もその視点を大事にするという思いと、私たちの部署のことを患者様に少しでもわかりやすく理解してもらいたいという願いです。現在、私たちはMSW 2 名、事務員 2 名で構成しています。福祉職のみのため、病棟や外来の医師や看護師とは普段から顔が見える関係作りを大事にしています。業務は主に、急性期病院、在宅からの入院相談などの前方連携、医療相談、退院支援などの後方連携です。そして、私たちに患者様、家族の方々だけでなく、どなたからでも、相談や声がかかった時には、まずは話を聞き「一緒に考えます」という姿勢を大事にしています。

また、当院では平成 24 年度より厚労省のモデル事業の採択を受け、平成 25 年度からは和歌山県の事業として「在宅医療連携拠点事業」に取り組んでいます。地域の医療・介護を横断的にサポートすることで病気を持ちながらも住み慣れた地域で自分らしく、過ごすことが可能となるよう、急性期医療から在宅療養まで切れ目のない地域連携システムを構築することを目標に活動を行っています。部署は異なりますが、在宅医療連携拠点事業部の様々な活動に接することで、地域の様々な在宅医療の課題に触れることができ、また、他機関や多職種間の顔の見える関係性の重要性を学んでいます。今後、地域医療構想が進む中で、さらに「在宅復帰」「在宅医療」の充実、推進が問われてきます。そういった中、地域医療福祉連携室の一員としてはより質の高いソーシャルワークと多職種、他機関との連携の重要性を再認識しているところです。

訪問看護ステーションだより

精神訪問看護室の活動報告

国保野上厚生総合病院 精神科訪問看護室 看護師

小山 智希



訪問先までの風景（美里）

H26 年 4 月にスタートした新しい部署です。スタート当初は看護師 1 名、作業療法士 1 名の少人数部署としてスタートしました。利用者さんが増えたことに伴い、内容の濃い看護を提供するため H27 年 10 月より看護師 2 名、作業療法士 1 名の計 3 名で利用者さんに訪問看護を提供しています。訪問看護室の目的は①身体的・精神的に安定し在宅での生活がおくれる②在宅生活がおくれるよう継続支援する③家族への支援④多職種との連携を充実させる⑤他病院、他施設、行政との連携を充実させる。この 5 点です。訪問先では身体面・精神面へのアプローチ、服薬コンプライアンスが充実するようその人にあった方法を利用者さんと模索したり通院治療の必要性の説明、各制度の申請・更新手続きのお手伝い、家事援助などを行っています。看護師の枠をこえて利用者さんに喜んでもらえる関わりが本当の訪問看護であると考えています。

医療安全

数珠つなぎ

橋本市民病院

恋中 理恵



平成 25 年度に医療安全管理者の任務を引き継ぎ、3 年目を迎えました。その中で日々思うことは、多職種からの協力や、他病院で医療安全管理者をされている方からの支援がどれほど心強いことかということです。

人と人の協力から良好なチームワークが生まれ、そこから安全安心な医療が生まれてくると考え、当院の

理念に掲げられている「心の通う医療」を提供できるよう、これからも院内外との多職種と協力しながら活動を続けていきます。

次回号に紹介させていただく方は
公立那賀病院 曾和 とも子様です

私の



「私の趣味」

公益社団法人和歌山県病院協会立和歌山看護専門学校

中島 理恵



私の趣味は、車を運転することです。

新人看護師の時は、年齢が若いのもありましたが、準夜勤務終了後に弟の引っ越しで東京に車で行ったこともあります。また、山口県の秋吉台へ日帰りでも行ったこともあります。ここ、5年ぐらいは夜勤等の疲れもあり、なかなか遠出をする機会がなくなっていました。

昨年、病院勤務から今の職場に変わりました。それは、

病院勤務中に臨床指導をしたのがきっかけで看護学生の教育に対して興味を持ったからです。

看護学校で働き出してから、初めの頃は実習先への挨拶まわりであちこち行くことに驚きました。ですが、運転をするのが好きな私には、色んなところに行くことに対して苦ではなく、反対に運転を楽しみながら実習先と学校を往復しています。

リレーエッセイ

友達の

輪

Vol.53

和歌山県立医科大学附属病院 看護師

東方 文香



2 年前からアロマトリートメントを習っています。トリートメント方法だけでなく、タオルのかけ方や体位の整え方など施術する相手への配慮も学び、日々の患者への接し方についても、改めて考えられる貴重な時間になっています。現在勤務している病棟でもアロマオイルを使用しマッサージをおこなうことがあります。趣味になればと始めたことですが、看護にも活かしていけるようにがんばります。

今回は、大阪府立大学大学院
看護学研究科 小児看護学 CNS コース
狗巻 見和さん(和歌山県看護協会員)
をご紹介します。

男の時短料理

第2回

エビのやきめし

白浜はまゆう病院 看護師 横畑 純貴

材 料

たまご (1 個)、エビ (むいたもの)、やきぶた、塩コショウ、しょうゆ、ごはん、ゴマ油

作り方

1. むいたエビに塩コショウ・しょうゆを入れる (適当)
2. エビをいため、おいておく
3. やきぶたを切る
4. ゴマ油を入れ、ごはんをフライパンに入れる



5. ときたまごをフライパンに入れる
6. まぜる
7. 先にいためておいたエビをいれる
8. やきぶたを入れる
9. いい感じになるまでいためる
10. 皿に入れて完成

My Hospital

医療法人 千徳会 桜ヶ丘病院



総看護師長 濱 真理子

当院は昭和12年に女医、成川千代子が「成川医院」を開設し、現理事長、成川守彦が「成川産婦人科医院」を昭和50年に、さらに場所を宮崎町に移し、昭和57年に「桜ヶ丘病院」として開設、その間、78年間、有田地方の地域医療のために努めてきました。病床数は99床で、医療療養病床(50床) 特殊疾患病床(49床)を有しています。一般内科を中心に腎臓内科、神経内科、循環器内科などの専門外来診察も行い、幅広く地域の方々の力になれるように努力しています。また、この6月末に箕島駅前に新築移転を行い、職員一同「心装改店」を合言葉に頑張っています。

新築移転に関しましては入院されている患者さん90名をいかに安全に移動していただけるかが一番の課題でした。そのために半年前から業者と打ち合わせを重ね、シミュレーションも3回行い、本番に備えました。

梅雨の最中にも関わらず、その日は晴れ、もちろん、全職員出勤です。朝6時30分集合。一人も遅れるものが無く、交通整理を担当するもの、患者さん移動担当のもの、新病院で待機するもの等々、それぞれが自分の役割を精一杯努めました。おかげで、患者さんの移動は問題なく、予定時間

を1時間以上短縮することができました。

しかし、それからが大変でした。物品移動は夜遅くまでかかり、それと同時並行して業務を行っていかねばなりません。患者さんの部屋番号、物品の置場所、すべて一からです。最近、ほとんどのスタッフから、「最初はどうかと思った」「やっと落ち着いた」と3ヶ月目にしてその言葉が出てきました。今回の移転で、改めて「うちの看護部」さらに「うちの全職員」の底力を感じさせてもらいました。

このエネルギーを持ってすれば、今後、さらに有田地域の医療に貢献していけるのではないかと密かに思っている今日この頃です。



第23回

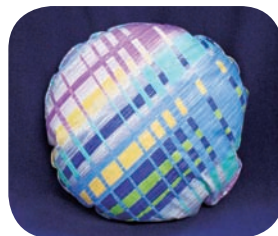
プレゼント!

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、2月25日(木)までにお送りください。

(消印有効・1人1通のみ)

抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

宛先 〒642-0017 海南市南赤坂17 和歌山県看護協会 「1月号プレゼント」係



「足まくら」
を
2名様に!

どちらか1つ
当たります!

「図書券」
1,000円分を
3名様に!

プレゼント
応募者の
声

- 県内の他の病院の情報を知る事が出来、いつも楽しみに読ませてもらっています。
- 「男の時短料理」おもしろいです。これからは楽しみです!

平成27年度第1回潜在看護職復職支援研修に参加して

安村 真理

ブランクの年数が1年、また1年と増えていくほど、復職したくても勇気がだせず、今回の研修に参加させてもらいました。

病院実習からの参加になりましたが、「約5年のブランクは長かったなあ、少しでも続けておけばよかったなあ」と感じる場面が多々ありました。もともと臨床経験も少ないですが、実際に患者さんと久しぶりに接するのはとても緊張しました。実習先の病院では、少しでも看護技術が経験できるようにスケジュールを組んでくれたり、同じようなママさんナースの話をいろいろ聞けるようにスケジュールを合わせてくれたりとしてくれ、とても助かりました。看護技術も実際、患者さんにさせてもらうことで、今の自分ができない部分はどこか把握でき、今後の課題が見えました。

研修を受けた後でも、看護師として再就職するのは不安ですが、“もう一度、看護師として働きたい”という気持ちは、研修前よりも強くなったと思います。来年4月に向けて、頑張っって就活したいと思います。

(実習病院：琴の浦リハビリテーションセンター付属病院)



看護師等養成所教員継続研修(中堅期)を11月21日(土)に開催しました。

県内の看護教員30名が出席しました。池西静江先生(Office Kyo - Shien 代表者、日本看護学校協議会副会長)を講師にお迎えし、「看護実践能力を育成する教育方法の提案 一看護技術教育に焦点をあてて」と題して講義をお聞きし、ミニ演習に取り組みました。

演習では実際に学生体験をして、学生の思考過程を知りながら、どういう風に授業を進めると効果的かという事を学ばれたようです。学生体験をしながら、日頃の指導案を反省されたり、教育方法の方向性を確認されたりといきいきと研修を受けられていました。

平成28年1月16日(土) 10時から16時 看護師

等養成所教員継続研修(管理期)を「これからの看護基礎教育」と題して行います。ぜひ、ご参加ください。



からだところの悩み相談(地域自殺対策強化事業)

平成28年2月28日(日) 13:00~17:00、和歌山県看護協会看護研修センターにおいて、来所及び電

話での悩み相談を実施します。当日の専用ダイヤルは、ホームページなどに2月中旬頃に掲載予定です。

東洋羽毛の **無料!!**
コーヒーサービス

東洋羽毛では、お世話になっている方々に無料コーヒーサービスを行っております。院内での師長会議・主任会議・ラダー研修会・研究発表会・勉強会等、地域や支部での看護部長会・看護研修会等での休憩時にホッと一息つきませんか？

どんな所でも無料で出張サービスさせていただきます



0120-88-2104



片隅にちょっとだけ、企業PRとしてお布団を置かせて頂いております。ご購入にも応じます。

東洋羽毛関西販売株式会社

お気軽に御利用ください。

和歌山県看護協会の動き

平成27年度第5回理事会

開催日時：平成27年10月7日（水）13：00～16：30
会場：看護研修センター会議室

I 協議事項

1. 看護研修センター施設整備資金の積み立てについて
承認

II 報告事項

1. 日本看護協会理事会報告

2. 日本看護協会主催会議報告
3. 担当理事報告
4. 県内関連団体会議参加報告
5. 会員数について
6. その他

平成27年度第6回理事会

開催日時：平成27年12月2日（水）13：00～16：30
会場：看護研修センター会議室

I 協議事項

1. 旧看護研修センター（西浜）売却の件 …… 承認

II 報告事項

1. 日本看護協会理事会報告
2. 日本看護協会主催会議報告

3. 担当理事報告
 - 1) 離職される方へ
 - 2) 新「会員情報管理体制」について
4. 県内関連団体会議参加報告
5. 会員数について
6. その他

和歌山県に看護協会の要望書を提出

要 望 事 項

- 1 看護職の就業促進と勤務環境の改善
- 2 准看護師の進学支援の強化
- 3 保健師活動指針の作成および統括保健師の配置推進

平成27年11月19日、和歌山県福祉保健部健康局の鳥淵博文医務課長を訪問し、今後に向けた要望書を提出しました。本会から古川会長、小泉専務理事、山本常任理事が出席し、看護職の現状や課題について意見交換を行いました。

これからの時代の要請に応じて、要望事項について支援していきたいと回答がありました。



平成28年度改選役員・監事・推薦委員および平成29年度日本看護協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について

《選挙管理委員会からのお知らせ》

平成28年6月18日（土）に開催する定時総会において平成28年度改正役員、推薦委員および平成29年度日本看護協会代議員、予備代議員の選挙を実施いたします。立候補される方は、正会員5名以上の推薦を受けて、立候補届け出用紙を下記に郵送してください。

【改選役員数と役職等】

1. 理事
会長1名、副会長1名、常任理事1名、
看護師職能委員長Ⅱ1名
2. 地区理事
5名（伊都、那賀、有田、日高、田辺）
3. 推薦委員6名（任期1年）
4. 平成28年度 日本看護協会代議員6名、

予備代議員6名

【立候補基準】

1. 和歌山県看護協会の目的達成のための活動に積極的に任務を遂行できる人
2. 和歌山県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
3. 和歌山県看護協会が定めた会議に出席できる人

【受付期間等】

立候補届け出用紙は和歌山県看護協会にあるので、ご連絡ください。

< 送付先 >

〒642-0017 和歌山県海南市南赤坂17番地
和歌山県看護協会 選挙管理委員長宛（親展）

< 提出期限 > 平成28年2月19日（金）必着



あなたのために、できること あなたに、できること

働きやすい職場の取り組み

「スーパー救急病棟における多職種連携」

和歌山県立こころの医療センター 2階西病棟 細田 英樹



和歌山県立こころの医療センターでは「早期社会復帰の実現」、「地域精神科医療の推進」が基本理念として掲げられています。私の所属する病棟は、精神科救急入院料病棟（スーパー救急病棟）で、精神科医師、看護師、精神保健福祉士（PSW）等による手厚い医療を提供しています。今まで入院が長期化することの多かった患者さんに対し、3ヶ月以内での家庭への早期退院を目標に努力しています。

早期の家庭内復帰・社会復帰を実現するためには、医療と福祉・地域と家庭を結び支えるための多職種との連携や情報交換が重要です。しかし、病棟では新規入院患者さんの処遇変更やケア会議の予定、個々の患者さんが抱えている家族や経済的な問題、受け皿となる地域の情報等について、なかなか把握できない内容が多くあります。そのような中で、病院の初の取り組みとして、2年前より朝の申し送り時に必ずPSWにも同席してもらい、情報伝達を受けています。

PSWが申し送りに同席することで、患者さんを取り巻く問題に対して、検討・決定・行動がリアルタイムに行えるようになります。

した。結果、処遇改善や退院の方向性を見いだすことがよりスムーズになりました。関わる看護師にとっても、目に見えて進捗が確認できるため、業務遂行への満足感や達成感が持てるようになってきました。

また、PSWとの密接な連携が多施設・多職種との連携につながります。ケア会議等への参加で多職種とのディスカッションを重ねることで、看護師自身も成長や学びに繋がると思います。何よりも病棟が活性化され、看護スタッフの積極性が増したことが挙げられ、PSWとの連携がもたらした効果は職場の環境をより良くしていると実感しています。



看護衣紹介

当センターで勤務する看護師が貸与を受けている白衣は、上下白色で男女ともにパンツタイプです。

デザインは希望調査を参考に決定され、白衣・シューズ・ソックスそれぞれより、数パターンの中から選択できます。

白衣のコンセプトは、安全面に配慮されていることが挙げられます。その特殊性より、「危険物になり得る物は極力身につけない」ことで、安全への意識を高めています。特徴的なのは、それぞれの白衣に個人名が刺繍されていることです。通常ならクリップや安全ピンで留める名札か、紐タイプの名札が主流ですが、名前は白衣に刺繍されています。また、ペン類などの文具や小物までも、必要最小限の装着にとどめているスタッフが多いです。

派手さは全くありませんが、スタッフ個々がその専門性を十分理解した姿であり、このシンプルな白衣姿が精神科で働くナースにとって、職務を円滑に行うための一つの答えだと思っています。

モデルは・・・？
若手期待のホープ
田中さん（男性）と、
最近トレーニングに
ハマっている阪本さん（女性）でした。